

平成21年度第1回長野市環境審議会議事録

日 時：平成21年5月26日（火）

場 所：長野市ものづくり支援センター5階交流室

出席委員：10名

欠席委員：5名

[会議の概要]

1. 長野市地球温暖化対策地域推進計画素案について事務局から説明し、修正点について協議

質疑要旨

< 委 員 >

1P目「地球温暖化による動植物の生態系や・・・」とあるが、生態系の解釈が問題。地球温暖化対策は、バイオマスとしての樹林や森林が重要。化石燃料など、液体や固体で固定されていた炭素を燃焼により空気中に放出したため、温暖化がおきている。そのため、再度炭素を固定させていく必要がある。地球レベルでの生態系という考え方が重要になってくる。生態系は、正確に理解することが難しい。2012年までの計画であれば、特に生態系に言及しなくて済むが、地球レベルでの生態系を変えていかなければならない。その時に、樹林や森林が重要になってくる。「動植物の生態系・・・」とあるのは、「生態系」のみで良い。「生態系」は、生物、非生物、空間の3要素の相互関係のシステム。あるいは、生物及びそれを取り巻く非生物の一定空間におけるそれらの相互関係のシステム。生物は動物や植物、非生物は土壌や水、地球レベルの大気や太陽エネルギーも含む。そのシステムが生態系。そのときに排出される二酸化炭素を樹木や森林で固定していく。23Pの方針19の説明で、「森林等の吸収源による・・・」とあるが、2012年までの政府の方針として吸収源対策があるが、2012年から先は、森林生態系全体の炭素貯留量を換算する

という方針が出ている。さらに先には、林産物など木材を長期に使えば、炭素固定がより効果的になる、という大きな方向性が出されている。2012年までの計画であれば修正が必要ないが、計画目標が2050年であるので、将来的なことも見通して、方針19は、「森林間伐等の計画的推進」として、「森林による二酸化炭素の吸収量を増大させ、森林生態系全体の炭素貯留量を増大させるため、間伐などの森林管理が適切に行われた森林経営を計画的に推進し、林産物利用の拡大を図ります。」と修正すると網羅される。39Pの施策19-1行政による森林整備の促進のところに、項目を追加し、「林産物利用の量的拡大と長期化により、炭素固定量の増大を図ります。」が必要。間伐対象補助金事業の推進も、「地球温暖化対策の吸収源対策・・・」とあるが、これも2012年までに対策であるので、その先の対策としては、「地球温暖化対策に対する森林の果たす・・・」が良い。16Pの「森林吸収の増大」では、「計画的な森林整備などによる二酸化炭素吸収源対策等・・・」とすれば良い。生態系の仕組みを入れた形での修正をすべき。

<委員>

生態系は動植物だけでないということが良いか。

<委員>

この文章で言えば、「動植物の生態」がふさわしい。生態系は広い範疇で、空間に存在する色々なものを示す。

<委員>

生態系には人間も含まれるため、「動植物の生態系や人間社会にとって・・・」となっていると思うが。

<委員>

誤解を招くようであれば、「生態系」という言葉が良い。動植物と記述すると偏ってしまう。

<委員>

その他は、林産物等の利用を入れて修正を。

< 委 員 >

39P 現状は短期2012年でかなり限定的な施策となっている。内容を変えた場合に、中・長期の部分はどのようにすべきか検討が必要。今ある対策は短期のもの。

< 委 員 >

内容は短期から長期までに反映する。長期的には非常に効果大きい。空気中の炭素は何らかの形で固定する必要がある。

< 市 >

林産物の利用拡大については、施策番号を追加し、事業者・行政主体とする。建築材の利用等を施策内容としたい。

< 委 員 >

それで良い。

< 委 員 >

そのへんが調整されれば良い。

< 委 員 >

13Pの目標値について、EUを中心とした先進国の削減目標が中心となって、京都議定書ができたと思う。具体的に-6%が日本に示されている。去年の7月に福田首相が世界に向けて2050年までに半減させることも言った。現在、13年以降の目標についてこれから討議されるのは、2020年までに25%ないし40%と言われている。基準年をいつにするか、削減の幅をどれくらいにするかということで、色々な意見が出ているが、これらを踏まえた上で、2050年までに-60%、20年までに-15%、いずれも2005年度基準であるが、これまでの国の色々な発言等と関連を説明していただき、なぜこの数字であるか説明をして欲しい。

< 市 >

2005年度基準については、洞爺湖サミットで確認された世界に呼びかける削減量が半

減ということであった。ここでは、現状比とされていた。現状とは2005年とされていると認識している。60%は「低炭素社会づくり行動計画」に現状比60%~80%と示されている。このうち60%を採用している。国の2020年の目標は6段階で議論されているが、議論の途中であるので、長野市独自に考えている。国の中間目標については、1990年比で基準年は違っている。90年比とした場合、長野市の現状は+24強の増加。90年比にすると現実性が薄れる懸念がある。中期・長期ともに現状比としている。

<委員>

計画策定の姿勢に「バックカスティング」と示されている。2020年はフォアカスティングになっている。2050年度の目標も60%~80%といわれている。70%としても良さそうだが、なぜ一番少ない目標にするのか説明が必要。15%についても、フォアカスティングにしている。無理なことはわかるが、できるかどうか分からない施策でも盛り込む意欲のある計画もたてられると思う。市民に出す時点で、世界の先進国並みにいかない計画を出すことは、市民に説明した方が良い。

<市>

ワーキングからの議論などで、期待削減量を目標値に近いくらい示せばよかったが、60%に遠い数字であった。示された目標で低い方をとった。2020年の目標を達成しても90年比+6%という背景もある。当初から、長期はバックカスティング、それ以外がフォアカスティングで検討してきている。

<委員>

バックカスティングには期待していた。並の取り組みでは目標に達しない。本気で今の経済のありよう、社会のありようを変えないといけない。そのくらいの重いところに長野市は挑戦するのかと期待していた。今の行政の力では実現できないとするなら、バックカスティングは削除していただきたい。具体的な数字を示さずに、「2050年には先進国平均の削減を達成する」精神として、姿勢として先進国並にやる姿勢があるかが重要。1

Pの記載からすると大変な差があるように思える。

<委員>

目標値は専門部会でも議論した。フォアキャスティングでやるか、バックキャスティングでやるかから議論した。思い切ったことをやるにはバックキャスティングでなければということになった。最初は - 50%になっていた。可能性の検討で70%という数字も出てきたが、国の動きについても、中期目標が経団連の発言もあり、低い目標の可能性もある。長野市の人口の推移や合併を踏まえて、最大限やれる方策で試算を色々行った。シミュレーションソフトも導入して施策効果を検討してきた。70%も非常にきびしく、夢のような数字になってもだめということで、60%とした。色々な技術が進むことも考えられ、計画の施策も一定期間で見直す。見直しの段階で目標数値を上げることも考えられる。

60%が精一杯であると思う。

<委員>

現在の心情と実際の環境悪化は引き換えられない。バックキャスティングは削除したほうが良い。13年以降の目標が示されたら日本の責務はいかにしても達成する、などの意欲は欲しい。

<委員>

バックキャスティングにも均等配分でやる場合と、将来に期待して加速的に削減量を増やすやり方がある。後者を期待されていると思う。均等配分でやると、10年ごとで、2020年に15%でよいと思う。バックキャスティングをしていないわけではない。

<委員>

ある年度に技術革新の影響で急激に減ることも期待されるが、実際には予測できない。環境教育に力を入れ、将来、意識が改革されることも期待できる。

<委員>

森林吸収量は換算されていないか。

<市>

現状推計では、吸収量を計算しているが、樹種・樹齢ごとの間伐面積が必要となる。将来整備計画でそこまでの数値が得られないため、算定していない。

<委員>

計画論的には、なかなか高い数値を示せないこともわかる。13pのグラフで、もう一つ破線で、下げなければいけないラインを示し、現在の技術では・・・という目標を立てられないか。

<委員>

現在の技術としても削減量がきっちり把握できないのが技術の課題と思う。61Pの表でも、削減期待量が示されている。空欄のところは不明ということか。

<市>

下3つについては、2020年までの削減量をガソリン車ベースで計算している。それ以降は、燃料電池車など技術革新と普及の様子が予測できないため、空欄としている。

<委員>

技術に過大な期待を寄せずに算出したのが60%だが、これも実現は難しい。バックキャストィングなりフォアキャストィングなり、きちっと削減できるという数字を挙げて、守っていくという方が良いと思う。それ以上の削減については、技術と思う。生活をかえるのも技術を変える必要がある。技術の発展に期待しながらということと思う。

<委員>

どういう覚悟でつくった計画かということをはっきり言ったほうが良い。いったいこの目標はどういう数字が市民にわかったほうが良い。

<委員>

人類が安定して存続するには、社会システムを変えなければならない。そこらへんにも触れ、最終的には対処しなければならない。文章で、課題に迫られていることを書き、現状

では、かなりがんばって書いた、ということを書いたらどうか。

< 委 員 >

60%は世界的なところまでいっていない、やさしい目標であることを正直に文章化して、高い目標を求めたいが、現状の技術で精一杯努力すると60%が妥当ですが、見直しの段階でさらに高い目標としたい。

< 委 員 >

不確定要素があるが、やる、高い水準を目指すという、これから検討しなければならない事項だが、人類存続のために必要な事項である、という記述が必要。計画としてはできないことを書く必要はない。意気込みは欲しい。

< 委 員 >

どこに書くかが問題。1Pの計画策定の部分に精神的な部分の記述を書くべき。バックキャスティング、フォアキャスティングを入れるかはどちらでも良い。長野市としてどのような精神が必要と思って取り組んでいるということが伝わるような内容にすべき。そのうえで、現状の到達点にたってみるとなかなか難しいが、バックキャスティングで見ると、将来的な技術革新の発展を望みながら精神を活かす形で進めていきたいことを入れ込んでどうか。具体的にどうするかを13Pの目標に盛り込めばよいのではないか。今のところはこの内容だが、技術の革新も踏まえて施策の強化をすることを記述したらよい。計画の見直しは45P推進体制で説明するのではなく、13Pに記述すべき。

< 委 員 >

世界の先進国並みに行うという表現が欲しい。40年も先のことはわからない。

< 委 員 >

世界各国は実績をふまえたやさしい目標もある。長野市は現状の技術と将来の技術を見込んで、非常に厳しいが60%を達成しようとしている。

< 委 員 >

40年先のことを世界に遅れないようにやるか、先頭にたってやるかということと思う。中間的であれば、先進国並みとすればよいのでは。60%とすると今のところは、先進国で一番遅れていることになる。

<委員>

社会システムを考えるのであれば、長野市が先進国の目標の中で、どういう街として生きていくべきなのかという姿を議論すべき。都市にも色々なタイプがある。自然環境を大切にしながら、観光業をやりながら、農業を活かしながらというまちづくりをするのか、商業集積にするのかという、都市のイメージがある。それを議論する必要がある。そのビジョンと世界全体の流れの中の位置づけを調和させなければならない。どんなことをしても厳密な数字が求められない。2050年の目標は意味があるのか。計画の一番大切なところが目標数値であると長野市が宣言することに意義がある。一つの計算としてはこういう数字もあるが、大切なのは、どんなまちづくりをしようしているのか、どんなシステムをつくらうとしているのかを前面に出した目標だという構成が良い。数字が一人歩きして60%となるのも意味がない。長野市だけで決まるわけでない。どういうまちづくりをするかが大切で、目標は参考値程度か。

<委員>

まちのあり方も含めて、できないことは対策を検討していきたいという文章があると良い。委員の発言の要約を入れてはどうか。

<委員>

環境問題の市民の意識は向上しているが、なかなか実績に結びついていない。市民、事業者の合意の下で、ライフスタイル、事業活動を省エネ型に変えていく必要がある。市民の意識を向上させるために目標を出すことの方が80、90にするより良いと思う。

<委員>

長野市の場合は1990年以降に発展したまち。他の町と比べて90年比にすると非常に

困る。全国平均より増加率が増えているのは、オリンピックがあったせいもある。景気向上を目指した結果がこうなっている。長野市がどうして苦しいことをするのか説明することも大切。市民がやる気の出る計画であってほしい。いくら言っても実行してくれないというのが実態。腰を上げなければいけないと思わせることが必要。

<市>

24.7%の理由は、オリンピックは影響を与えていると思っている。削減目標数字は明確に入れていきたい。「先進国並み」という意見もいただいているが、数字は欲しい。60%がいいか2020年で15%がいいか専門部会で論議をいただいている。数字を変えるには理由も必要。もう一度検討をする。県の方式のように、明確に60%でなく、60%以上とすることも考えられる。1Pのバックカスティング記事については、ワーキングでの議論もある。考え方はバックカスティングと思う。13Pの15%の根拠であえてフォアカスティングと書かなくても良かったと思う。

<委員>

精神の問題。可能性があるとするればこの数字という説明が欲しい。

<市>

市民の皆さんによく認識していただき、システムがどこまで変えられるかもあるが、企業も含めて全体として長野市として取り組まなければいけない。

<委員>

数字を変えなくても説明を変えてもらえば良い。苦労してすごい数字であることを伝えていただきたい。

<市>

もう一度表現も含めて考えたい。もう一度必要であれば部会を開き、審議会をもう一回開きたい。

<委員>

数字は必要。市民向けやマスコミには数字が前面に出る。そこの思いを書いていただきたい。

< 委 員 >

キーワードの説明があるが、最初に出ているところに解説がないところがある。見直しを。詳細はメールで送る。内容が難しいところが多々ある。

< 委 員 >

文章が難しいのはやさしくする意外に方法がない。

< 委 員 >

30Pに市内の森林間伐材等の燃料源化促進とあるが、 剪定枝・・・とあるが、緑化木剪定枝は含まないか。

< 市 >

現在は果樹剪定枝で運用している。

< 委 員 >

を一つ増やし、「緑化木剪定枝のウッドチップ化の促進と一部の燃料化利用の開発促進」を入れて欲しい。樹木をバイオマスとして考えた場合、単に燃料として燃やしていて、非常に無駄使い。首都圏では、ウッドチップ化が常識のところもある。ストックヤードがあればできる。すぐにできると思う。実施主体に道路課、都市計画課、公園緑地課、環境政策課としてはどうか。

< 委 員 >

これは市民向けの資料か。事業者向けには別につくられるか。

< 委 員 >

これは推進計画で、広報用は抜粋して別につくる。計画はきちっとわかりやすく書く。

< 委 員 >

市民への啓蒙活動という意味もあるか。実施主体が市民となっているが、生活者が関わる

のは5分の1程度。あとは事業者主体に見える。市民も頑張り、事業系も頑張る。経済活動を向上させつつ、ビジョンを追及しつつ、効率よく、環境負荷の少ない工夫が見えづらい。生活者の立場は心身を癒すところ。できれば、暖房もしっかりとっていきたい。弱い立場よりもまず、事業系のところを期待したい。計算方法で、一世帯あたりなど出ているが、世帯数推計の反映も慎重にして欲しい。ある層で分母にする必要があるのか慎重に考えて欲しい。生活者には樹木を植えることに限界がある。発生抑制と吸収増加を明瞭に示した方が良い。

< 委 員 >

計画の中身をわかりやすくということか。

< 委 員 >

はい。

< 委 員 >

人口動態については予測数値を使っている。この素案でパブリックコメントをとるとわからないということか。

< 委 員 >

ほとんどわからないと思う。量的に多い。

< 市 >

計画には細かな点も入れながら、きちっと作っていく。これば素案。パブリックコメントには素案とともに概要版も作成する。概要版はA4版2枚にまとめる。それも概要版の概要版。3段階でパブリックコメント用に公開する。

< 委 員 >

55Pの人口推移で、人口減少傾向を示すのでなく、これから支えていく人口がどれだけあるかを示したほうが良い。高齢者がどれくらい残って、これからCO2削減に取り組める人がどれくらいで、という形で長野市の特徴を出していかないと、事業内容が頑張れるか見

通しが立ちづらい。長野市の CO2 削減をどのような特徴で行うのか打ち出すべきか。高齢者や中山間地在住者は自転車道への転換が困難。もっと特徴的な森林・公園整備が明るい方向か。市民菜園を広めることも考えられると思う。どこにでもできることをたくさん書いても息切れがしてしまう。

< 委 員 >

資料は推計の基礎データ。どんなことをしてどんな生活かはプロジェクトコードごとに書かれている。

< 委 員 >

長野市の沿革の後にかかれているので、人口減少の様子を示すだけでよいか。

< 市 >

プロジェクトの削減予測根拠の資料として掲載している。

< 委 員 >

長野市の特徴としての取り組みは施策に示している。

< 市 >

高齢化社会の温暖化対策をどうするかということか。14P、15Pの望ましい姿では、幅広い層のワーキンググループで議論を重ねてきた。理想的な街を想定して施策を考えてきている。

< 委 員 >

人口推計はどのような考え方か。

< 市 >

長野市の第四次総合計画に用いている推計データ。

< 委 員 >

すでに実態と乖離しているところがある。55Pに推計データを入れる必要があるか。何かメッセージがあるのか。

<市>

メッセージ性はない。

<委員>

2050年の推計をするにあたっては、2030年までの推計を使ったということと思うが、突然推計値が出てきている。

<市>

いきなりグラフができている。リーディングプロジェクト削減期待量の推計にあたって根拠とした、第四次総合計画で示した推計データということで、説明を入れて掲載したい。

<委員>

特別なメッセージがなければ、それでよい。

カテゴリー1及び2で抽象的だが、まちづくりの姿は出ている。目標数値そのものは掲げる程度であれば、どんなまちをつくるのか、望ましい姿が重要。そのために年齢構成も考えられているか。コンパクトシティもこのメッセージだけだと具体性が乏しい。後の施策と一緒に読まないといけない。どうしたらよいか伝わりづらい。自転車を高齢者が利用することもコンパクトシティが実現していないと難しい。インフラ整備が必要。ある程度見ればわかるが・・・。

<委員>

面的考え方が少ない。道路、都市計画の関与が少ない。S7に「モデル地区の設定」を入れて、具体的に実施して試行錯誤することも大切。担当が都市計画課なり入れる方が良い。

<市>

当初、計画作成段階で、区画整理時の面的エネルギー導入も想定して、都市整備部も入れていたが、協議の結果、実現性を高めるため、現在、各部局が持つ計画との整合をとってきた。調整をとる中で担当課名を削除している。

<委員>

モデル地区の検討ではどうか。

<市>

担当課を入れずに、K プロジェクトと同様に、「行政」といれることは可能かと思う。

<委員>

なぜ入れるかは、社会実験的なテーマがある。検討くらいは入れられないか。

<市>

4 4 P の検討プロジェクトに入れ、「行政」実施としたい。

<委員>

それでよい。国でも面的利用の方針が出ると思う。計画には入れたい。可能な範囲でよい。

<委員>

5 P の表は縦長にして見やすくすべき。パンフレットをつくる時も大切。5 1・5 2 P の望ましい姿の実現イメージは大切。6 章と改める必要はない。第 3 章の後か第 4 章の後ろに入れると良い。

<委員>

地産池消で農家でも頑張っテアンテナショップをつくり、農業公社の支援を受けて頑張っている。このような支援を拡大させて欲しい。高齢者の作ったものを買ってもらうことが広まるとうれしい。

<委員>

市民向けパンフレットに行動の難易度をマークで示すと良いか。行動の CO2 削減の寄与度、レジ袋をもらった場合ともらわなかった場合を CO2 への寄与度を書いて欲しい。どれだけ節約になるかお金で示して欲しい。1 個で影響度の低いものをたくさん実行するのと、1 個で大変影響度の高いものがあると思う。

<委員>

行動の難易度は、リーディング、サブ、検討対策の 3 段階になると思う。これではわかり

にくいか。

< 委 員 >

市民にもわかりやすく工夫して欲しい。

< 市 >

計画策定期間はあまり延長することも困難。限られた期間であるが考えていきたい。全体の繋がりについて、望ましい姿、方針、施策の 3 段階があるが、24・25 p で体系図があるが、位置をずらすことも考える。

< 委 員 >

もう一度審議会を開く。